

第2回第10採択地区教科用図書採択協議会 議事録

開催年月日	令和2年7月15日（水）		
開催場所	三芳町役場3階501会議室		
開催時間	13:00 ～ 17:00		
教育委員会	出席者		
富士見市	山口 武士 教育長	小野寺 巧 教育長職務代理者	
	簗輪 菊雄 教育委員	渡部利枝子 教育委員	深井美千代 教育委員
ふじみ野市	朝倉 孝 教育長	富田信太郎 教育長職務代理者	
	塩野 好一 教育委員	丸山 昇 教育委員	茂井万里絵 教育委員
三芳町	古川 慶子 教育長	池上 善一 教育長職務代理者	
	長野真寿美 教育委員	鈴木 信之 教育委員	細谷 雄司 教育委員
	事務局		
	学校教育課長	石井 勝博	
	指導主事	鳥山 裕貴	

<p>3 説明（後半） 報告及び質疑</p> <p>音楽</p>	<p>(議長) 会議を再開します。</p> <p>(議長) 音楽の専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長) 失礼いたします。よろしく願いいたします。</p> <p>(議長) それでは音楽一般・器楽について説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) はい。失礼いたします。皆さん、こんにちは。</p> <p>(委員) こんにちは。</p> <p>(専門員長) 私は、音楽科専門員長を務めます、ふじみ野市立亀久保小学校、校長の村越澄子でございます。これより、音楽科調査研究の結果を説明いたします。音楽科は音楽科（音楽）と音楽科（器楽）に分かれております。最初に音楽科（音楽）についてご説明いたします。 音楽科（音楽）では、2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、3つ設定いたしました。1「知識及び技能を習得するための工夫」、2「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫」、3「学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫」です。 それでは、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。 はじめに観点①について調査研究結果の説明をいたします。「学びのユニット」として、ねらい、教材、共通事項、さらに学びを深めるための曲や活動が、円の形でデザインされており、歌唱・創作・鑑賞の内容が一目でわかる配列となっております。また、教材に応じて、共通事項のイの用語や記号を右ページに示し、「楽典」のページで調べられるよう、工夫されています。「指揮をしてみよう」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達段階に応じて習得できるようにしています。補足としまして、「Let's sing!」や「Let's try!」のコーナーでは、表現するための技能をイラストや図や写真を使ってわかりやすく示されております。 次に、観点②についてご説明いたします。「何が同じで、何が違う？」では、音楽の共通性と固有性について発展的に考察することができ、音楽的な見方・考え方を活用して自分の考えを導くことが期待</p>
--------------------------------------	---

されます。歌唱における「話し合おう」のページでは、構造を理解したり、表現を工夫したりするワークシートがあり、協働的な活動が展開されるよう工夫されております。また、教師役と生徒役のイラストによる質問や助言の吹き出しが、主体的な学びや思考・判断を促しております。

最後に観点③についてご説明いたします。主要教材に加え、「比べてみよう」「深めてみよう」と学びが深まるようにさらに教材が設定されています。また、「まなびリンク」では、目次のQRコードから教材にリンクした動画、音声、ワークシートなど学習に役立つ情報につながり、幅広い鑑賞曲が視聴でき、情報量が豊富なので、さらに学習を深められる工夫がされています。創作では、活動1から6の順番で流れが示されておりましたが、生徒のイメージや想像力を膨らます場面絵や楽器等の絵が少なめでした。

つづきまして、「教育芸術社」についてご説明いたします。

はじめに観点①についてご説明いたします。長唄の表現活動では、楽譜が図式化され、視覚的に音程や抑揚の雰囲気や伝わりやすく工夫されています。また、創作活動では、広い音域の可視化や図形の使用により、表現したいイメージをさらに深めることができるよう工夫されています。そして、ページ下部の二次元コードを読み取ることによって、WEBサイト上での参考資料を閲覧することができるようになっており、生徒たちの知識を支えるものとなっています。さらに、鑑賞では、「このころ日本では・・・」として、日本の歴史とリンクさせて、曲の時代背景に興味を持たせることができ、曲の捉え方など、鑑賞と表現の一体化が図られております。

次に観点②についてご説明いたします。「深めよう！音楽」では、考えるテーマがはっきりと示され、聴き取ったこと感じ取ったことをまとめるワークシートが効果的でした。また、教材ごとに意見交換する様子が、教師役、生徒役による吹き出しで示されており、進んで学び合い、かつ思考・判断を促すよう工夫されています。そして、教材に応じて、共通事項や用語、音楽記号などを左右のページに分けて掲載され「音楽の約束」で調べられるようになっています。この部分は知識を習得させるための工夫としてもあげられます。

最後に観点③についてご説明いたします。学習内容の表示では、資質・能力の3つの柱がはっきりと示され、それに対応する学習内容や教材がわかりやすく、見やすくなっています。歌唱の「深めよう！音楽」では、主体的・対話的で深い学びの実現を促し、鑑賞の「深めよう！音楽」では、知覚・感受を促し、3つの資質・能力の育成が図られております。各教材の学習のねらいと、ねらいに迫る学習活動文が具体的に示されています。生徒が何を学ぶのかがわかるよう工夫されています。

続きまして、音楽科（器楽）についてご説明いたします。音楽科（器楽）についても、2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、音楽科（音楽）の教科書と同様、3つ設

定しました。1「知識及び技能を習得するための工夫」、2「思考力・判断力・表現力を育成するための工夫」、3「学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫」です。

それでは、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

まず、観点①についてです。各楽器の構造や各部の名称を、写真や図を用いてわかりやすく学習できるようになっています。また、リコーダーでは、学びのねらいをスタート、まとめの曲をゴールと設定し、見開きごとに学習を見通せる構成になっています。そして、音の「スケッチ」では、荒城の月の簡易的な前奏を箏で創作できるようになっており、教科書の教材を創作学習と連携することができるよう工夫されています。ギターの練習曲では、基本的な奏法から発展的な練習曲まで幅広く掲載されています。

次に観点2についてご説明いたします。「何が同じで何が違う？」では、音色や旋律のふき方の特徴を比較し、共通性と固有性を考え、特徴を理解することができるようにワークシートが工夫されています。また、「話し合おう」では、協働的な活動をとおり、生徒の思考力、判断力、表現力等の促進を図る工夫がされています。音楽科（音楽）の教科書教材と関連する教材が取り入れられ、特に、楽器を使った旋律づくりや曲の構成の学習等、創作学習との連携が図られるよう、工夫されています。

最後に観点3についてご説明いたします。「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されています。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されています。音楽科（音楽）にはある「学びのユニット」は、音楽科（器楽）の教科書にはありませんでした。

つづきまして、「教育芸術社」についてご説明いたします。

はじめに観点1について説明いたします。各楽器の構造や各部の名称を、写真や図を用いてわかりやすく学習できるようになっています。また、リコーダー指導では、大きな3つのステップに分けられ、各ステップに2小節程度のやさしい曲から導入するため、苦手な生徒も取り組みやすいよう、工夫されています。楽器の奏法や構え方が演奏者（生徒）の目線から撮影されていて見やすく、特に、ギターの奏法では、弦の音域や主な音のポジションが図で示され、基本的な奏法について、細かく説明が掲載されています。

次に、観点2についてご説明いたします。音楽目標と同時に「音楽的な見方・考え方」を働かせる際に視点となる、「音楽を形づくっている要素」が各教材に例示してあります。また、「深めよう！音楽」では、イラストの教師役と生徒役の会話からヒントが与えられ、思考・判断が深められるよう工夫されています。長唄「勸進帳」の「寄席の合方」をボディパーカッションでも取り組めるように楽譜が工夫されており、表現と鑑賞の関連が図られています。

美術	<p>最後に観点3について説明いたします。「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されています。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されています。また、目次の後に学習内容を示すページを掲載し、器楽・創作が学習指導要領の内容とともに、色分けされ、各教材の関連が視覚的に確認できるようになっていて、音楽科（音楽）と統一されています。</p> <p>説明は以上でございます。</p> <p>(議長) ありがとうございました。 ただ今の説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>(議長) はい、どうぞ。</p> <p>(委員) 器楽の方なんですけれども、琴とか尺八とか三味線の演奏の仕方がかかっているんですが、子どもたちが実際に、そうゆうものに触れ合うことって授業中にできるんでしょうか。</p> <p>(専門員長) はい。できますが、全員の生徒が、楽器の数が限られておりますので、そこは課題となるところでございます。</p> <p>(委員) はい。</p> <p>(議長) 他にございますか。よろしいでしょうか。はい。では以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) 失礼いたします。</p> <p>(議長) 続いて美術の専門員長を入室させてください。</p> <p>(議長) では美術についての説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長)</p>
----	--

はい。皆さん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、美術科専門員長を務めます、富士見市立ふじみ野小学校、校長の北田でございます。これより、美術科調査研究の結果を説明いたします。美術科では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」、「題材の設定や参考作品の選択等への配慮」、「写真や資料のレイアウト」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「開隆堂出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに観点1、「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、各題材にQRコードを掲載しており、制作過程がわかる動画や作品の解説、教科書掲載以外の作品画像、用具の安全な使い方等を、生徒個々のタイミングで見ることができます。また、題材名は、個々に発想が広がるように工夫されています。ねらいにそって生徒が創造性を高められるように、意識すべき造形的な視点や学習を深めるヒントを、リード文や「学習のポイント」で示しています。さらに、「発想・構想の方法や学習の進め方」「他教科との関連」「関連づけて学習できるページ」等、主体的に学習を深めるポイントを11種類のマークを使って分かりやすく示しています。

次に観点2、「題材の設定や参考作品の選択等への配慮」についてご説明いたします。まず、各題材、学習指導要領にそって目標を3観点で示し、1題材およそ見開きの2ページで構成しています。また、着眼点の違う生徒、作家作品を掲載することで、個々の感覚に基づき題材への迫り方を考えられる設定となっています。また、該当学年相応の生徒作品を掲載することで、各自の技能に応じて無理せず取り組める設定となっています。さらに、暮らしや社会と美術とのつながりを意識させる題材が29あり、美術を学習する意義を生徒が感じやすい設定となっています。

最後に観点3、「写真や資料のレイアウト」についてご説明いたします。教科書の大きさは、A4ワイド判です。美術1と美術2・3の2冊構成となっています。解説文や作品画像、活動写真等を、間隔をあけて配置し、地の色を全ページ白で統一しております。また、鑑賞題材として、作品の魅力が伝わるように原寸大資料を4点掲載しています。

次に、「日本文教出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに観点1、「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、題材のQRコンテンツが充実しており、タブレット端末で技法や解説動画等を個々のタイミングで見ることができます。また、タッチ操作で360度方向から生徒作品等を見ることがもできます。また、活動をイメージしやすいような題材名を工夫しています。題材をとおして、着目すべきポイントをリード文や吹き出しの「造形的な視点」で示しています。さらに、「題材との関連情報」「道徳との関連」「関連づけて学習できるページ」等、主体的に学習を深めるポイントを9種類のマークを使って分かりやすく示しています。

次に観点2、「題材の設定や参考作品の選択等への配慮」についてご説明いたします。まず、各題材、学習指導要領にそって目標を3観点を示しており、1題材およそ見開きの2ページで構成しています。また、様々な視点や手法で表現された生徒作品、作家作品を数多く掲載することにより、多様な切り口から学習に取り組める設定となっています。さらに、暮らしや社会と美術とのつながりを意識させる題材が30あり、美術を学習する意義を生徒が感じ取りやすい設定となっています。

最後に観点3、「写真や資料のレイアウト」についてご説明いたします。まず、教科書の大きさはA4ワイド判です。美術1と美術2・3上と2・3下の3冊構成になっています。表情豊かな生徒の活動写真や迫力ある写真を多く掲載しています。また、鑑賞題材として、作品の魅力が伝わるように原寸大の資料を7点掲載しています。

続きまして、「光村図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに観点1、「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、題材によってQRコードを掲載しており、タブレット端末で制作のプロセスや技法動画、掲載作品の360度動画等を個々のタイミングで見ることができます。また、活動を端的にイメージできるように題材名を工夫しています。また、リード文で意識すべき学習のポイントを3行以内で簡潔にまとめています。表現や鑑賞の活動を深める問いかけや表現のプロセス例を示し、生徒が取り組みやすいよう工夫しています。さらに、「みんなの工夫（表現のプロセス例）」「道徳との関連」「関連する巻末資料ページ」等、主体的に学習を深めるポイントを4種類のマークを使って示しています。

次に観点2、「題材の設定や参考作品の選択等への配慮」についてご説明いたします。まず、各題材の目標を、表現と鑑賞の2観点を示しています。1題材2ページの構成が多く、内容により1、3、4ページ構成の題材がそれぞれ複数あり、題材によって軽重をつけた構成となっています。また、ねらいにそって、比較的近い系統の生徒、作家作品を掲載しており、学習の方向性を絞って取り組めるような構成となっています。さらに、暮らしや社会と美術とのつながりを意識させる題材を20設けています。

最後に観点3、「写真や資料のレイアウト」についてご説明いたします。

教科書の大きさはA4判です。美術1と美術2・3の2冊構成となっています。情報量が充実している分、文字量が多く感じる誌面もあります。また、トレーシングペーパーを使って書き込みができる鑑賞題材や、紙質を工夫し、より本物に近い感覚で見ることができるようにした図版など、生徒の感性を刺激する新しい試みがあります。原寸大資料は4点掲載しています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明について、質問・ご意見があったらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、じゃあ蓑輪委員さん。

(委員)

開隆堂出版のところですけども、北田先生、説明として省かれたんですが、資料には最後の△のところ、他社と比べると少ないという表現があるんですね。だけれどもここから見ると、日本文教出版が7点で、光村が4点なので、他社に比べて少ないというのは、なくてもいいかなというふうに思うんですけども、それが1点と、それからQRコードを通じてタイミングが見られるというんですけど、360度動画という表現が、開隆堂の方は360度というのが無いんですけども、これは360度では見られないのでしょうか。この2点をお願いします。

(専門員長)

はい。1点目はすみません、開隆堂の一番下の項目でございますか？

(委員)

はい。

(専門員長)

はい。開隆堂出版が4点、日本文教出版が7点、また最後の光村図書さんが4点でございますが、この△の方はですね、光村さんの方に関しましては、原寸大資料4点掲載しておりますが、その他に、いろいろトレーシングペーパーを使った取り組みとか、新しい取り組みがございますので、そこは○になってまして、まあ4、7、4とあまり変わりませんが、少し軽重をつけさせていただいてるところでございます。

(委員)

ついでに、他者の者は出版社の社の間違いで…この「他者」でいいんですか？他の者でいいんですか？

(専門員長)
失礼しました。

(議長)
このような扱いは「者」で。

(委員)
「者」でいいんですか。はい。ありがとうございます。

(専門員長)
大丈夫ですかね。2点目の…

(委員)
開隆堂…

(専門員長)
QRコードですね。

(委員)
360度見られないのかという…

(専門員長)
はい、開隆堂出版では、そのようなところがちょっと見当たりませんでしたので、そのような書き方になっております。

(委員)
はい、わかりました。

(議長)
はい、では質問続けてお願いします。

(委員)
はい。これからの世の中っていうか、日本が一番遅れているところが、その中の創造性で、創造性で一番必要なのが美術だと言われてるんですけども、その中ですごくいい表現があったんですけども、開隆堂さんの上から2つ目の○、「個々に発想が広がるように、題材名を工夫して作ってある。ねらいにそって生徒が創造性を高められるように、意識すべき造形的な視点や学習を深めるヒントを、リード文や学習のポイントで示している。」、これをもう少し詳しく教えていただけると、生徒たちの創造性を、どこで引っ張り上げてるのかなとすごく興味があるんですけども教えてください。

保健体育	<p>(専門員長) はい。それぞれの教科書ともにですね、生徒の主体性を育むような工夫がされております。その中で開隆堂さんに関しましては、例えばですけども、題材名に「心惹かれる風景」とかですね、生徒がより身近に感じて、こういうのをこれから勉強するんだなというのが、とても分かりやすいかなと私たち感じたもので、このような良い評価にさせていただいたというところでございます。</p> <p>(委員) はい。ありがとうございます。</p> <p>(議長) 他にございますか。</p> <p>(委員) はい。</p> <p>(議長) はい、お願いします。</p> <p>(委員) はい、題材数にそれぞれ各社56点とか54点とか39点とかってバラつきがあって、光村なんか39点と少ないんですが、学習的には支障とかは有るんですか無いんですか。</p> <p>(専門員長) はい。美術のですね年間の指導総授業数が1年生が45時間、2年生と3年生が35時間でございます。その中で、学校はですね年間計画を作成していきます。したがって、教科書に掲載されている数にはバラつきはございますが、各社ともその時間数の中で、十分な題材数になっていると感じております。以上でございます。</p> <p>(議長) 他はよろしいですか。はい、では質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) 失礼しました。</p> <p>(議長) 続いて保健体育の専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長) 失礼いたします。</p>
------	---

(議長)
保健体育についての説明をお願いいたします。

(専門員長)
はい。皆さん、こんにちは。

(委員)
こんにちは。

(専門員長)
私は、保健体育科専門員長を務めます、富士見市立水谷中学校、校長の斉木正一でございます。これより、保健体育科調査研究の結果を説明いたします。保健体育科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「健康な生活への意識を高める内容について」、「適切かつ効果的な資料の掲載について」、「生徒の思考を深める内容について」、「その他」の4つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「健康な生活への意識を高める内容について」ご説明いたします。健康な生活に関して学習指導要領が求める内容は確実に網羅されていました。その上で、小・中・高の学習の連動性を各章の最初に明示したり、身近な生活に関する発問を効果的に導入したりするなど、生涯にわたって健康な生活を送る意義を明確に示すことで効果的な内容になっていました。

次に、「適切かつ効果的な資料の掲載について」、主なものをご説明いたします。外部リンクも用意するなど資料は豊富でした。教科書に掲載されている資料を比較すると、最新の資料を使用している数が最も多くありました。また、文章と資料の構成バランスも良く、様々な資料が効果的かつ見やすく掲載されていました。

続いて、「生徒の思考を深める内容について」、主なものをご説明いたします。「深める・伝える」「活用する・広げる」等の指導過程を設定してあり、より思考を深めやすく工夫されていました。

最後に「その他」についてご説明いたします。ルビを非常に多く活用し、文字を大きくする、UD教科書体を使用している、カラーユニバーサルデザインを用いている等、ユニバーサルデザインに対する意識が高く効果的に活用されていました。「東京書籍」については以上です。

次に、「大日本図書」についてご報告いたします。

はじめに、「健康な生活への意識を高める内容について」ご説明いたします。学習指導要領の内容は網羅されており、小・中・高の学習の連動性を明示したり、「学びを生かそう」でより深い学びの課題を提示したりするなど、生涯にわたって健康な生活を送ること、スポー

ツキキャリアへの思考を促すことで効果的な内容になっています。

次に、「適切かつ効果的な資料の掲載について」主なものをご説明いたします。左ページに文章、右ページに資料というふうに、見開きページの構成が工夫されており、資料が豊富かつ見やすくなっている点で効果的でした。

続いて、「生徒の思考を深める内容について」主なものをご説明いたします。毎時間の内容に「活用して深めよう」が用意され、生徒が思考を深めやすく工夫されていますが、文章内の重要語句に対する説明をさらに充実させるという点では改善が必要と考えます。

最後に「その他」についてご説明いたします。カラーユニバーサルデザインを用いており、見やすさの工夫や読み間違いの解消に繋がっていますが、文章表現が簡略化され箇条書きのようになっている点、文字数も制限されて文字自体も小さくなったりしてしまっている点で工夫改善が必要であると考えます。「大日本図書」については以上です。

続いて、「大修館書店」についてご報告いたします。

まず初めに、「健康な生活への意識を高める内容について」ご説明いたします。学習指導要領の内容は網羅されており、小・中・高の学習の連動性が明示してありました。また、「課題をつかむ」の内容が「考えよう」「意見を出そう」「やってみよう」と具体的な指示となっており、健康な生活を送る意義について見つめやすくなっており効果的でした。

次に、「適切かつ効果的な資料の掲載について」主なものをご説明いたします。ウェブサイトの情報活用も可能であり資料は十分に用意され豊富でしたが、教科書に掲載されている資料は各ページ内での配置が固定化されておらず、結果として文章と資料のバランスを崩すことに繋がっており工夫改善が求められると考えます。

続いて、「生徒の思考を深める内容について」主なものをご説明いたします。学習のまとめに「思考・判断・表現の問題」があり、思考を深める工夫が成されていますが、1単位時間の中にも思考を深める場面が設定できるようにする点、文章内の重要語句に対する説明を充実させるという点で、工夫改善が必要であると考えます。

最後に、「その他」についてご説明いたします。カラーユニバーサルデザインを用いており、見やすさの工夫や読み間違いの解消に繋がっていますが、各ページにおける文章と資料のアンバランスさを解消する点や文字の大きさを考慮するといった点で工夫改善が必要であると考えます。

最後に、「学研教育みらい」についてご報告いたします。

まず初めに、「健康な生活への意識を高める内容について」ご説明いたします。健康な生活に関して学習指導要領が求める内容は確実に網羅されていました。その上で、10ページを使って健康な生活に向けての喫煙・飲酒・薬物関係等の内容を取り扱っていました。また、「コラム」「生活への活用」等でも今後の生活について紹介してお

り、健康な生活を送る意義を明確に示すことで効果的な内容になっています。

次に、「適切かつ効果的な資料の掲載について」主なものをご説明いたします。教科書サイトの情報活用も可能で資料は十分に用意され豊富ですが、教科書掲載資料は各ページ内での配置パターンが一定しておらず、結果として文章と資料のバランスが崩れていました。その点では、工夫改善が必要であると考えます。

続いて、「生徒の思考を深める内容について」主なものをご説明いたします。1単位時間の学習の流れが①「課題をつかむ」②「考える・調べる」③「まとめる」「深める」の3段階となっており、思考を深める場面が設定されています。また、教科書サイトへのアクセスが可能な点や将来に向けた仕事との関わりを提示してある点は思考の深まりに効果的な内容となっていました。

最後に、「その他」についてご説明いたします。カラーユニバーサルデザインを用いており、見やすさの工夫や読み間違いの解消に繋がっていましたが、各ページに資料がふんだんに散りばめられていることにより、文章と資料のバランスを崩す結果となっています。見開きページの構成を工夫し、全体を見やすくするという点で工夫改善が必要であると考えます。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、質問・ご意見お願いいたします。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

オリンピック・パラリンピックの関係で、障害者スポーツについて、社会的に大きな関心が高まっていると思うんですけども、それについての記載…特になんかこう、特徴っていうものがあつたかどうかということと、保健では逆に例えば野球なんかでボールの投げ過ぎで、健康を崩してしまう懸念がされてますけれども、それスポーツ障害についてなんか触れてるようなものがあつたのでしょうか。

(専門員長)

はい。各者ともですね、オリンピック・パラリンピックの内容について掲載されており、生徒への関心を引く、そういった内容が見受けられました。スポーツ障害についてはですね、それぞれの健康と障害の部分ですかね、そのところの内容で取り扱っているんですけども、スポーツに特化してという記載については、なかなか見受けられなかったように思います。以上でございます。

(議長)

<p>技術・家庭 (技術分野)</p>	<p>他にいかがですか。では質疑がないようですので、以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) どうもお世話になりました。ありがとうございました。失礼いたします。</p> <p>(議長) 次に技術・家庭、技術分野の専門員長を入室させてください。</p> <p>(議長) 少々お待ちください。</p> <p>(議長) はい、それでは技術・家庭、技術分野の説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) はい。 (専門員長) 皆様、こんにちは。</p> <p>(委員) こんにちは。</p> <p>(専門員長) 私は技術科専門委員長を務めます、富士見市立富士見台中学校長の堀川博基と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。 それでは、技術科の研究結果について説明いたします。技術科では「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」の3者について、調査研究を実施いたしました。その調査研究の観点でございますが次の2つを設定しています。観点1が、「基礎的・基本的事項の理解や習得のための学習について」ということで、技術の基礎・基本について、その知識・技能について、思考力・判断力・表現力、これをわかりやすく学ばせることができるかどうかという観点でございます。観点2は、「技術の見方・考え方を生かした問題解決学習について」ということとなります。技術的な視点でのトレードオフ、または最適化、これをどのように図っていくか。問題解決をどのような過程を経て図っていくのか。また技術の可能性を広げ、どのように実社会で生徒たちに生きて働く力として機能させていくか、そうゆうところを観点としてでございます。</p> <p>それでは、1者目の「東京書籍」について、調査研究結果を報告いたします。 はじめに観点1について説明いたします。各章について、「目標」と学習内容のポイント、これが「キーワード」として明示されていま</p>
-------------------------	--

す。学びの内容が明確化されることにより、学習内容の基礎・基本が焦点化され指示され、生徒にわかりやすい内容になっています。また、章のはじめには小学校の関連学習内容や、中学校で「学んだ」若しくは「学ぶ」他教科との接続が明記され、学びのつながりを強めています。次に、各章の全体的な流れが「基礎・基本の習得」「技術の工夫を読み取ろう」「問題を発見し、課題を設定しよう」の3段階で構成されており、学ぶ目的や必要な知識・技能、これを十分に考え、主体的に「作品づくり等」に取り組み、問題解決を図るプロセスとなっています。最後に、写真やイラストが多く掲載され学習の深化が図りやすい構成がなされているとともに、「キャラクターの説明」「+安全」「+衛生」「Next」等のコーナーにより、多様な情報が掲載され、生徒の学びへの意欲の深化につながっています。

続いて観点2についてでございます。まずは、各章の導入部分において、「技術の見方・考え方」「技術の最適化」を設け、本章の見方・考え方のヒントを明示し、学びの深まりへつなげています。また、ガイダンスの部分では「最適化の窓」により、技術の最適化へのヒント、それより波及する創意・創造へのポイントがわかりやすく考えられるように示してあります。次に全編において「問題を発見し、課題を設定しよう」という章が設けられ、すべての内容において「なぜ学ぶのか」「何の役に立つのか」等について主体的に意識する文脈学習のエッセンスがちりばめられています。題材例がスマートフォンやタブレット等に関する、社会的需要や生徒のニーズにマッチしたものとなっており、生徒の製作意欲や学習意欲を高めるものとなっていると考えられます。また、各章にある「テックラボ」この内容が、基本的な製作技能と自らの創意をつなげるガイドとなり主体的な学習の支援となります。

次に2者目の「教育図書」について、報告いたします。

観点1についてですが、学習課題の明確化につながる「めあて」と「キーワード」が章・節ごとに丁寧に記載され、学習のポイントが一覧で確認できるようになっています。各章の学習段階が「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」という、履修段階に即した形で構成され、自分の学びの進捗や全体の見通し、これが把握できやすくなっています。題材例についても、基本的な題材から発展的な題材まで選択肢が広く設けられ、生徒の習熟度により一人一人に適した題材を選択し、問題解決を図ることができる構成になっています。最後に、本文の表記ですが重要語句について「拡大表示」または「色を変えた表示」と、わかりやすく示され、すべてにおいて本文中の資料との関連が明示され、丁寧に掲載されています。

続いて、観点2についてです。先ほども触れましたように、具体性と汎用性のある題材例を提示し、「ものづくり」により問題解決を図る内容となっています。特に「情報の技術」においてはプログラミング言語、それや操作方法等が複数掲載されており、問題解決に幅を広げています。こちら、先ほども触れましたように、各章の内容構成が「みつける」「学ぶ」「振り返り」の3段階となっています。「みつ

ける」において対話的に課題を引き出し、見方・考え方を深めています。「学ぶ」では、製作活動を通し問題解決に迫っています。「振り返り」では考えを深め、次の課題への意欲を高める基本的な構成になっています。各章の終末では「まとめ」において、技術のプラス・マイナス面について考え、社会との接続、持続可能な社会への意識づけを深めています。本文に設けられている「技」のコーナーで、技術的なエピソードにより、キャリア教育や社会での汎用性について大きくつなげています。全体的に、専門性の高い題材例が多く取り扱われており、課題解決の多くの過程が製作に偏る傾向がある。また、製作中の過程のために基礎・基本に重視され、発展性に少し欠ける傾向がある。そのような特徴があると思います。

では、最後に3者目の「開隆堂」について、報告いたします。

観点1についてですが、ガイダンスにおいて、他教科との関連を明記し教科の横断的広がりを示しています。また、「学習の目標」について各節ごとに丁寧に提示し、学びにブレが生じないよう学習内容の明確化を図っています。各章の構成は、ものの見方・考え方による「気づく」「はたらかせる」「定着させる」という段階で流れ、技術科における基本的な学びのサイクルを重要視しています。題材例については、基本的な知識・技能の習得にポイントを置いたものが多く、各題材の特徴から、題材同士によるトレードオフ、また最適化に結びつけることができるようになっていきます。本文の「リンク」表示により、他の学習内容とのつながりを示し、汎用性を高めています。また、本文中の資料においても基本的な事項に内容を絞り込みシンプルでわかりやすい構成となっています。

続いて観点2についてです。各内容の流れを「問題解決の流れ」とし、「基本的な知識・技能の習得」「問題解決の手順」「技術による問題解決」「学習の振り返り」の4段階として、製作活動により問題解決に迫る構成となっています。実習例の題名に、課題につながる工夫がなされており、生徒一人一人のニーズや創意により、主体性が反映できる実習例となっています。すべてにおいて「社会とのつながり」「評価・改善」等により、トレードオフや最適化につながる工夫がなされています。この実習例において、そのフォーマットがPDCAサイクルにより構成されており、シンプルな活動を基本とし、学びの過程において大きく逸脱する可能性が少ないものと考えられます。

本文全体に社会で活躍する人や企業等、様々な技術的エピソードを広く紹介し、技術科への興味・関心の向上、またキャリア発達へのつながり、伝統文化の理解等に大きくつながっております。最後に総合的な観点から、基礎・基本を大切にしてベーシックな構成となっています。そのため、発展的な学習や生徒のニーズに合った学習内容の展開に、少しギャップを生じる可能性がございます。

以上を持ちまして、3者の説明を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

(議長)

はい、ありがとうございました。
ただ今の説明について、ご質問・ご意見はありましたらお願いします。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

はい。どの教科書にもあると思うんですけども、特に前の教科でも話したんですけども、DXの、デジタルトランスフォーメーションの中心はやっぱり技術・家庭だと思うんですよ。誰が考えても。そういう意味では、それらの教科書で、これらのことについては十二分に内容と合うということで判断してよろしいですか。

(専門員長)

はい。特に情報技術の取り扱い、そちらについては、3者とも情報の現状であったり、基礎的な知識、技能、また情報モラル、それらを含めてすべて取り扱いを丁寧にしてございます。

(委員)

ありがとうございます。じゃあプラスで、そうすると中学3年が終わったら、海外に行った場合には、もう戦力としていかざるを得ない部分があると思うんですよ。飛び級だとか。そうするとそういうことについても、少なくとも技術分野については、十二分にどの教科書さんも対応できたりだとか、それとも、まあもう少しこら辺はやった方がいいんじゃないかなというのがあれば。

(専門員長)

そうですね。基本的な部分については、3者ともですね、基本的にベーシックなところは網羅してると思います。業者によってはプラス α なところで多少の差があるのは事実ですが、ベーシックなところでは、差はないと考えられます。

(委員)

はい、ありがとうございます。

(議長)

他にございますか？はい、では以上で質疑を終了します。専門員長さん、ありがとうございました。

(専門員長)

ありがとうございました。

(議長)

続いて家庭分野の専門員長さん、お願いします。

技術・家庭
(家庭分野)

(議長)

では技術・家庭、家庭分野について説明をお願いいたします。

(専門員長)

はい。皆さん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、技術・家庭科家庭分野専門員長を務めます、ふじみ野市立大井小学校、校長の朝倉でございます。これより、技術・家庭科家庭分野調査研究の結果を説明いたします。技術・家庭科家庭分野では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「課題設定・課題解決する学習の構成について」、「主体的に技能の定着を図る工夫について」、「実践的な態度を育成する工夫について」、「その他」の4つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「課題設定・課題解決する学習の構成」についてご説明いたします。単元構成は、小学校家庭科での学習を示した上で、該当学年の学習内容を整理しております。このことは、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校の学習の見通しを持たせるための、学習指導要領に示すガイダンス機能を単元ごとに発揮しているものです。

次に、「主体的に技能の定着を図る工夫」について、主なものをご説明いたします。家庭分野は家庭生活の状況や生徒一人一人の経験値の差が比較的大きいことから、生徒の実状に応じた具体的な提示や例示が求められます。この点において、59ページにあります「野菜のいろいろな切り方」にあるような詳細で分かりやすい図説や切り方などの実際の技能の視覚化が、技能をイメージしやすく、定着を図ることにつながります。

次に、「実践的な態度を育成する工夫」について、主なものをご説明いたします。経験に差異がある生徒に対して実践的な態度を育成するためには、実践を想起しやすく、取組の手がかりや見通しを持つことが必要となります。66ページから89ページにわたる実習例や参考例のように豊富な実践例が示されることが生徒一人一人の実状に応じた選択肢が増えることとなり、実践の意欲の向上につながると考えます。

最後に「その他」についてご説明いたします。家庭生活の延長には社会生活があります。その点におきまして、持続可能な社会に関する観点と地域との協働に関する観点について資料の通りでございます。

次に、「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに「課題設定・課題解決する学習の構成」についてご説明いたします。家庭分野の目標は、より良い生活の実現に向けて生活を工夫し創造する資質・能力を育成することにあります。課題解決学習は実生活と理想とする生活の違いを認識し、どのような解決を図ることができるかを工夫するものです。その点において、理想と現実の違いから課題を設定する視点を持たせ、課題解決学習の流れを示す単元構成の工夫が見られます。

次に、「主体的に技能の定着を図る工夫」について、主なものをご説明いたします。先に説明しました通り、生徒の実状に差異があることから実寸提示や豊富な実践例は技能定着に有効と考えます。また、150ページから157ページに示される地域の食文化やユネスコ無形文化遺産である和食の取扱いは、身近な文化理解とともに主体的な取組に向かう興味関心につながります。

次に、「実践的な態度を育成する工夫」について、主なものをご説明いたします。「センパイに聞こう」の特集が単元ごとに掲載されております。学校における教科の学びが社会とどのようにつながるかを生徒が想起できることは、学びが実践につながることを実感する機会となります。161ページや211ページなどの「学びを人生や社会に生かす」という観点は、キャリア教育につながるものと考えます。

最後に「その他」についてご説明いたします。情報量は膨大なものがありますが、レイアウトや小見出しなどで分類されており、情報をまとめる工夫が見られます。また、少子高齢化社会を踏まえ、地域との協働に関する観点については、10ページにわたり紙面を割り当てております。

次に、「開隆堂出版」についてご説明いたします。

はじめに「課題設定・課題解決する学習の構成」についてご説明いたします。「話し合ってみよう」や「考えてみよう」という観点は、意見交換により考えを深めることを促すものとなり、『主体的で対話的な深い学び』の実現に資する構成となっております。また、領域ごとに「持続可能な社会」をめざした取り組みについて工夫する観点が示されております。

次に、「主体的に技能の定着を図る工夫」について、主なものをご説明いたします。食生活をはじめとする作業等はQRコードが掲載されておりまして、詳細な手順を学びのペースに応じて獲得することが可能でございます。このことは、一人一台の学習用端末が整備された後には、学習場面、実践場面での活用が広がりますが、現段階では教科書紙面からの情報量が比較的少ない状況でございます。

次に、「実践的な態度を育成する工夫」について、主なものをご説明いたします。「先輩からのエール」という特集は、単元末だけでなく、186ページや203ページにあるとおり学習の導入時にも掲載されており、キャリア教育や学びの見通しを持たせる機会になると考えます。

最後に「その他」についてご説明いたします。今日的課題である「災害や減災について」具体的な内容が8ページに渡り掲載されてお

外国語

ります。地域との協働に関する観点については「地域との関わり」として取り扱っております。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明について、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

(議長)

ございませんか？はい、それでは質疑が無いようですので、質疑を終了します。専門員長さん、ありがとうございました。

(議長)

続いて外国語科英語の専門員長さんを入室させてください。

(専門員長)

失礼します。

(議長)

外国語科英語についての説明をお願いします。

(専門員長)

はい。皆様、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、外国科専門員長を務めます、ふじみ野市立大井西中学校教頭、永易淳史でございます。よろしくお願ひいたします。これより、外国語科調査研究の結果をご説明いたします。外国語科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、まず、「学習内容の場面設定について」、次に「単元を通した到達目標について」、そして「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動について」、最後「その他」の4つを設定し、その結果につきまして、お手元の報告書のとおりになっております。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご説明申し上げます。

はじめに「学習内容の場面設定」についてご説明いたします。日常的な話題が中心となる学校や自宅、そして海外旅行やホームステイの体験的な場面設定があり、外国語の背景にある文化に対する理解が深まる構成になっております。

次に、「単元を通した到達目標」について、主なものをご説明いたします。話すこと〈やりとり〉を充実させるために、3年間の到達目

標である文構造や文法事項に系統性が見られ、段階的に習得しやすい構成になっております。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動」について説明いたします。「聞くこと」の活動が多くなっております。また「書くこと」の活動も多いので、「話すこと[やりとり]」そして「話すこと[発表]」の活動を増やす等の改善が必要と考えられます。

最後、「その他」についてご説明いたします。構成されている語、連語が小学校で学習した語に1,600～1,800語を大きく上回る2,367語が加えられております。

続きまして「開隆堂出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「学習内容の場面設定」についてご説明いたします。日常的な話題が中心となる学校、自宅の場面設定が大半を占めており、外国語の背景を理解するためには、海外での体験的な場面を増やす等の構成の工夫が必要だと考えられます。

次に、「単元を通した到達目標」について、主なものをご説明いたします。英語の特徴やきまりに関して3学年間の到達目標である文構造や文法事項に系統性が見られ、段階的に習得しやすい構成となっております。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動」について説明いたします。「聞くこと」の活動が多く、さらに「書くこと」、「話すこと[発表]」も多くみられます。「話すこと[やりとり]」の活動を増やし、領域のバランスを整えていく検討が必要だと考えられます。

最後、「その他」についてご説明いたします。構成されている語、連語が小学校で学習した語に2,106語と、大きな上回る量が加えられております。

続きまして「三省堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「学習内容の場面設定」についてご説明いたします。日常的な話題が中心となる学校の場面が多く、外国語の背景の理解を深める体験的な場面もありますが、ウェブサイトに関する場面も多く設定されており、設定全体の工夫が必要であると考えられます。

次に、「単元を通した到達目標」についてご説明いたします。「話すこと[やりとり]」を充実させるために、3年間の到達目標である文構造や文法事項に系統性が検討する必要性があり、特に時制の構成には改善が必要と考えます。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動」について説明いたします。「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やりとり][発表]」「書くこと」の領域の活動がバランスよく構成されており、コミュニケーションを活用できる技能が身に付きやすくなっております。

最後に「その他」についてご説明いたします。構成されている語、

連語が小学校で学習した語に1,600～1,800語を大きく上回る2,561語が加えられております。

続きまして「教育出版」について調査研究結果をご報告申し上げます。

はじめに「学習内容の場面設定」について説明いたします。日常的な話題が中心となる学校、さらに海外旅行などの体験的な場面設定もあり、外国語の背景にある文化に対する理解が深まるバランスの良い構成になっております。

次に、「単元を通した到達目標」について、主なものをご説明いたします。「話すこと[やりとり]」を充実させるために、3学年間の到達目標である文構造や文法事項に系統性が検討課題となり、特に時制を扱う構成には工夫が必要と考えます。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の場面設定」についてご説明いたします。領域別の活動のバランスがよく、「書くこと」「話すこと[やりとり]」の活動をさらに増やすとコミュニケーション活動の技能が十分に身に付きやすくなってくると考えられます。

最後に「その他」についてご説明いたします。構成されている語、連語が小学校で学習した語に1,600～1,800語を上回る2,167語が加えられております。

続きまして「光村図書」について調査研究結果をご説明いたします。

はじめに「学習場面の場面設定」について説明いたします。日常的な話題の学校やウェブサイト、海外旅行等の体験的な場面設定があるため外国語の背景にある文化に対する理解が深まるバランスの良い構成になっております。

次に、「単元を通した到達目標」についてご説明いたします。「話すこと[やりとり]」を充実させるために、3年間の到達目標である文構造や文法事項に系統性があり、段階的に習得しやすい構成になっております。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動」については、「聞くこと」の活動が多いのですが、「話すこと[やりとり]」「話すこと[発表]」の活動が少ないので、領域別の活動内容のバランスを整える必要があると考えております。

最後に「その他」についてご説明いたします。構成されている語、連語が小学校で学習した語に1,600～1,800語を上回る2,188語が加えられております。

最後に「啓林館」について調査研究結果をご報告申し上げます。

はじめに「学習内容の場面設定」について説明いたします。日常的な話題の学校や図書館等、外国語の文化の理解を深める海外旅行や生活の体験的な場面設定があり、「話すこと[やりとり]」に活用できる内容が多くなっております。

次に、「単元を通した到達目標」についてご説明いたします。英語

の特徴やきまりに関して、3年間の到達目標である文構造や文法事項に系統性があり、段階的に習得しやすい構成になっております。

そして、「コミュニケーション活動を扱う状況の言語活動」について説明いたします。「聞くこと」「読むこと[発表]」「話すこと[やりとり]」のそれぞれの活動のバランスが良く、コミュニケーションにおいて活用できる技能が十分に身につけやすくなっております。

最後、「その他」についてご説明いたします。構成されている語、連語が小学校で学習した語に1,600～1,800語を上回る1,965語を加えられております。

説明は以上となります。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

お願いします。

(委員)

はい、質問です。三省堂さんと教育出版さんのところで、「特に時制の構成に改善が必要である」とあるんですが、もうちょっと具体的に説明をお願いします。

(専門員長)

はい、時制の扱いに関して検討が必要ということなのですが、時制というのは、中学校で学習する内容は、時間に係わること、現在・過去・未来及び現在完了といった時間の流れを表現する際に、通常であれば現在形、今の時間を説明できるようになってから、例えば過去形、未来形というふうに学習していくのが一般的となっております。しかしながら、これら2者に関しましては、そちらの順序だてたものではなく、過去形が出てきて現在形といったような形で、時制の概念は、バランス良く順序だててというところに課題が見られると考えました。

(議長)

他にございますか。はい。

(委員)

6者で最後の「その他」の追加された語数ですけども、一番多い三省堂と一番少ない啓林館を比較すると、596語も差があるんですけども、高校入試に対して、この差というのは支障は絶対出てこないと

思われますか。

(専門員長)

はい、お答えします。文部科学省が1,600語～1,800語加えなさいという基準は、6者すべて満たしてはおります。ただし、この語のカウントの仕方というのもいろいろございまして、例えば固有名詞、人の名前、地名そういったものが多く出る場合は、語数が合計として多くなると思われます。私が、入試問題に関して支障がないのかというふうに聞かれてお答えする立場ではございませんので、それはお答えできませんが、学習指導要領の基準は満たしております。

(議長)

次どうぞ。深井委員さん。

(委員)

同じです。

(議長)

同じですか。他にございますか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

専門委員の中でよくまとまってると思うんですけども、例えば今、世界の動きの中で、ニューヨーク、シンガポール、それからロンドン、東京で、香港はどうかかなという、ようするに英米圏の中で生き残っていくためには、特にプレゼン、発表能力ってすごく大事だと思うんですよ。そうゆう意味では、どの教科書会社さんも、そのところについては、まあご意志の問題もあるんでしょうけども、内容の問題もあるんでしょうけども、そこについては十分配慮されて、どの教科書を学んでも、大切なお子たち一人一人に、そく使えるプレゼン力が身を着けられるだけのものがあるということによろしいんじゃないか。

(専門員長)

はい。今回の中学校の学習指導要領の改訂で、従来であった4つの領域、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの4つの領域だったんですが、これは長年変わりませんでした。今回から話すことが2つに分かれて5領域になっております。その2つに分かれた1つが、やり取り、いわゆるコミュニケーション、もう一つが発表となっておりますので、どの教科書もその発表プレゼン力の基盤を身に着けるよう

<p>道徳</p>	<p>に工夫はされております。</p> <p>(委員) はい、ありがとうございます。</p> <p>(議長) 他にございますか。なければ以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) はい、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) 次は最後に道徳となりますけれども、今、専門員長さん移動しているところですので少しお待ちください。</p> <p>(議長) 次、道徳の専門員長さん、入室させて下さい。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) それでは道徳科について説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) はい。よろしく申し上げます。私は、道徳科専門員長を務めます、ふじみ野市立西小学校、教頭の鈴木孝雄でございます。これより、道徳科調査研究の結果を説明いたします。道徳科では7者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「現代的な課題などの題材を教材として取り上げ、ねらいを達成するための効果的な工夫があるか」、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」、「その他」の3つを設定しました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。</p> <p>それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。</p> <p>はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。発達段階に即した題材として学校を舞台にした教材を数多く設定しており、生徒が道徳的な問題を自分の問題として考え、話し合いたくなるように工夫されています。「いじめ問題」と「生命尊重」については</p>
-----------	---

3つずつの複数教材を扱えるユニットを組んで道徳的な問題に多角的に向き合い、話し合うことができるように工夫されています。しかしながら、書いて読むだけの授業になってしまう恐れもあります。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。自分の考えや思いをいつでも書き込めるようにする「つぶやき」欄が設けられており、書き込んだことを話し合いに生かすことができます。また、巻末には心情円やホワイトボード用紙が付属されており、自分の考えを可視化して、話し合いに全員参加できるように工夫されています。役割演技を積極的に取り入れられるよう「ACTION」が設定されていますが演技を通して深めていくことは何か、これがわかりづらいところもあります。

最後に「その他」について説明いたします。同一の内容項目の教材は、発達段階を考慮した教材となっています。また、系統性をもたせ、生徒がより深く考えられるような内容にもなっています。

次に、「教育出版」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。

「いじめや差別のない社会について深く考える教材」については複数時間のユニットが設定されています。多様な教材を扱うことで多面的・多角的に考え重層的に考えを深めていけるようにしております。目次には教科書で学んでいくテーマを示し、1年間でどんなことを学んでいくのかあらかじめ考えることができ、見通しを持って学習に取り組むことができます。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。答えが一つではない課題に向き合い、よりよいあり方を考え続けていくことができるように授業の導入の問いかけを教材ごとに工夫しています。「学びの道しるべ」を参考にし、対話的な学びの授業を展開できるのですが常に発問が3つになっており柔軟な対応がしづらい面もあります。

最後に「その他」についてご説明いたします。身近な生活場面でのできごとを題材とした教材は生徒に身近すぎるがゆえに話し合えないことも時にはあります。

次に、「光村図書出版」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。現代的な課題は教材と結び付けて考えられるようにコラムが作成され、生徒が深く考えられるようにしています。また、掲載されている教材のほとんどが現代的な課題とかかわりをもった教材となっています。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。生徒の興味関心を高めるために教材の種類も多岐にわたるよう工夫がなされています。生徒がめあてを意識できるように設定された「考えよう」、多面的・多角的に

考えられるように設定された「見方を変えて」、これを手引きのようにして、生徒が深く考えることができるようにしています。ただし、「見方を変えて」での発問をどのように活用したらよいか難しい面もあります。

最後に「その他」について説明いたします。「深めたいむ」で深めていくためには、読み物教材での学びを深まりある学びにしていけないと効果も薄れてしまうと考えられます。

次に、「日本文教出版」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。将来にわたって生き方を追求したいと思えるような生徒を育成できるように、キャリア教育に配慮した学年ごとのテーマを設定し、生徒の多様な考えを引き出せるよう工夫しています。また、「いじめ問題」を自分たちの問題として正面から向き合い考えることができるように「いじめを直接的に扱う教材」「いじめを間接的に扱う教材」などの複数の教材を扱ったユニット学習が設定されています。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。「別冊道徳ノート」は発問欄が空白にされています。それによって授業者が発問を柔軟に設定することができ、より自由な授業展開を行っていくことにも対応できます。また、「学習の進め方」を設定したことで、誰でも「問題解決的な学習」等の指導を充実したものにできるようにしています。

最後に「その他」について説明いたします。教材の内容理解に役立つような「参考」、道徳科以外の学習でも活用できるような「プラットフォーム」を掲載し、生徒がより楽しく考え合えるようにしていますが、道徳科以外の学習で活用するためには、年間計画を工夫する必要があります。

次に、「学研教育」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げ、ねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。全学年で「生命尊重」を重点テーマとしています。また、情報モラルも3年間で系統的に学べるように教材が掲載されています。情報モラル以外にも、現代的な課題の教材を、生徒が自分と結び付けて考えることができる展開にしています。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。「クローズアップ」「クローズアッププラス」で異なる複数の意見の提示や、視覚に訴えかける写真、イラストなどが掲載され、多面的・多角的に考えられるような工夫をしていますが、複数を扱うことに慣れていないと、多様な考えの羅列だけに終わってしまう可能性もあります。

最後に「その他」について説明いたします。紙面全体に広がる写真や漫画を用いて、生徒の興味だけでなく問題意識をひきだそうとしています。

次に、「廣濟堂あかつき」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げ、ねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。

「生命尊重」「いじめ防止・人権尊重」を重点的に扱えるように構成し、生徒が議論しやすい話題を取り上げる工夫をしています。また、「いじめを許さない 私たちの心」の特集ページが設けられており、いじめ防止については、直接的に扱った教材だけでなく、さまざまな内容項目の学習を通じて考えることができるようにもしています。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。

「学習の手がかり」の問いは、分かり切った答えを簡単に出すような問いにしないようにしています。教材を通して共に考え話し合えるよう「人間のよさ」を感じることでできる教材が精選されています。しかし、教材に共感できなかつた生徒は、生き方を押し付けられていると感じてしまう恐れもあります。

最後に「その他」について説明いたします。別冊「中学生の道徳ノート」に記述することを通して、自分自身を深く見つめていけることができるようにしていますが、内容項目解説が生き方の答えを示しているようにも感じられます。

次に、「日本教科書」について説明いたします。

はじめに「現代的な課題などの題材を教材として取り上げ、ねらいを達成するための効果的な工夫があるか」について説明いたします。

「生命尊重」の学びをより深めるための教材で学ぶことを通して、「人間尊重の精神」や「いじめを許さない」心を育成しようとしています。また、キャリア教育の視点から他教科とのつながりを考慮した教材を掲載しています。

次に、「『考え、議論する道徳』を通して道徳性を育成するような工夫があるか」について説明いたします。さまざまな考えをもって議論することができるよう答えが一つではない道徳的な課題を議論できる教材を掲載しています。巻頭にある「道徳科って何を学ぶの？」で授業の流れの型が示されていますが、これは一つの指導過程と考えないと広がりある授業が展開できなくなってしまう恐れもあります。

最後に「その他」について説明いたします。視覚資料が少ない教材もあるので、生徒の視覚に訴えるような資料を準備して授業に臨む等、視覚に訴えるための工夫も必要になってくると考えられます。説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明について、ご質問・ご意見はありましたらお願いします。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

あの、教えてください。ふじみ野市の丸山です。東京書籍さんとその下の教育出版さんの、2番目の東京書籍さんの「いじめ問題」と「生命尊重」についてユニットを組んでおり、複数教材を通して多角的に問題に向き合えるよう工夫されているが、書いて読むだけの授業になる可能性もあるで△、でその下の教育出版さんの欄には、「いじめ問題」に関する複数時間のユニットが設定され、重層的に考えを深めていけるということで○なんですけれども、その違いは？

(専門員長)

はい。いじめ問題等をユニットを組んで学習することはとても素晴らしいことだと思うんですが、書いて読むだけの授業になってしまうという恐れが東京書籍さんにはあったので、あえて△を付けさせていただきました。

(委員)

なぜ？

(専門員長)

書いて読むだけの授業であると、求められている考え議論する授業の中で、生徒同士が考えを議論することができなくなってしまって、深めていくことができなくなってしまいます。

(委員)

これね、書いて読むだけの授業になる可能性もあるということは、その、答えられる範囲でいいんですけれども、その根拠、論拠というかね。

(専門員長)

発問欄が設定されているので、その書くだけになってしまって、それを生徒が読むだけの授業になってしまうという…。

(委員)

ま、そういう事もあるよってことね。

(専門員長)

はい。

(委員)

じゃあその資料の扱い方によっては、どの教科書会社さんもその部分については、きちっとその子ども一人一人、生徒一人一人が広げて考えることができるよねっていうことでよろしいですね。

(専門員長)

